

講義コード	M3A0300101	科目ナンバリング	13AF200
講義名	◆日本東洋美術史特殊研究(学部:美術史講義)(大学院)		
副題	日本陶磁造形論		
英文科目名	Advanced Studies: in Japanese and East Asian Art History (lecture)		
担当者名	荒川 正明		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 水曜日 4時限 中央-303		

授業概要

やきものをつくること、それは人類がはじめて化学変化を応用して達成されたものとされています。土や泥や石のような見栄えのしない原料が、炎の働きによって、人工の宝石ともいふべき輝くばかりの光を放つ美しいうつわに生まれ変わります。そのようなやきものを私たちは長い歴史のなかで暮らしのなかで活かし、とくに茶道具や食器として身近で触れ、そのかたちやデザインを心から楽しむことができました。この講義を通じて、やきものを楽しむための基礎的な見方や知識が身につくことを課題とします。

到達目標

日本のやきものについての基礎的な見方や知識を獲得し、うつわを使うこと、鑑賞することを楽しめるようになること。さらに、その造形に興味や関心を抱き、美術史的なアプローチが可能になるような能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	やきものに親しむ
第3回	やきものが出来るまで(1)
第4回	やきものが出来るまで(2)
第5回	やきものづくりの名人(1)
第6回	やきものづくりの名人(2)
第7回	やきものコレクター
第8回	古典の名作に出会う(1) 土器を中心に
第9回	古典の名作に出会う(2) 須恵器を中心に
第10回	古典の名作に出会う(3) 奈良三彩
第11回	古典の名作に出会う(4) 平安時代の施釉陶器
第12回	古典の名作に出会う(5) 中世の陶器—瀬戸窯
第13回	古典の名作に出会う(6) 中世の陶器—渥美・常滑
第14回	貿易陶磁とは？
第15回	桃山時代の陶器(1) 瀬戸・美濃窯
第16回	桃山時代の陶器(2) 瀬戸・美濃窯
第17回	桃山時代の陶器(3) 唐津窯
第18回	桃山時代の陶器(4) 京都の樂焼
第19回	近世のやきもの(1) 磁器の誕生
第20回	近世のやきもの(2) 肥前磁器—古九谷
第21回	近世のやきもの(3) 肥前磁器—柿右衛門
第22回	近世のやきもの(4) 肥前磁器—鍋島
第23回	近世のやきもの(5) 京焼—野々村仁清
第24回	近世のやきもの(6) 京焼—尾形乾山
第25回	近代のやきもの(1) 明治有田
第26回	近代のやきもの(2) 京焼
第27回	現代のやきもの(1)
第28回	現代のやきもの(2)
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	予備日

授業計画コメント

展覧会や個展など、実際に作品に近づく機会をなるべくもちたい。

授業方法

パワーポイントなどを使った講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前回の授業の復習をしてくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% 年間数本のレポートと試験を行います。

第1学期(学期末試験):20% 第2学期(学年末試験):20% レポート:40%

※大学院生には課程相応の学修と成果が求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメント用紙を利用し、質問や疑問に応じたい。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

やきものの見方:角川選書,荒川正明,2004

やきものの楽しみ方,荒川正明,池田書店,2009

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

これまでにやきものに興味のない人、ほとんど知識の無い人でも全く問題ありません。授業に積極的に参加する学生を歓迎します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M3A0300102	科目ナンバリング	13AF200
講義名	◆日本東洋美術史特殊研究(学部:美術史講義)(大学院)		
副題	日本美術史研究の諸相		
英文科目名	Advanced Studies: in Japanese and East Asian Art History (lecture)		
担当者名	島尾 新		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-503		

授業概要

日本美術史・東洋美術史研究に関わるさまざまなトピックと研究方法を取り上げて、講義と文献講読また学生による発表と議論を行う。

到達目標

- 1) ヴィジュアル・イメージについて、その種類に関わらず語れるようになること。
- 2) 日本絵画史を中心とした東アジア美術史のさまざまなトピックと研究方法について基本的な知識と認識をもつこと。
- 3) それぞれのトピックについてのディベートを行うスキルを身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	美術史の構図(1): 日本美術の概論
第3回	美術史の構図(2): 「作品」のレイヤー
第4回	ヴィジュアル・イメージを語る(1): 一枚の絵から
第5回	ヴィジュアル・イメージを語る(2): 表現の種類
第6回	トピック: 「表象」と「再現」
第7回	トピック: 「人」(1): 「肖像」「裸体」
第8回	トピック: 「人」(2): 「環境」と「記号」
第9回	トピック: 「自然」(1): 「自然」と「Nature」
第10回	トピック: 「自然」(2): 「山水」と「風景」
第11回	トピック: 「自然」(3): 「空間」
第12回	トピック: 「東アジア」
第13回	トピック: 「ポストモダニズム・ポストコロニアリズム」
第14回	前期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	トピック: 「ことばとイメージ」(1): 「詩書画」(1)
第17回	トピック: 「ことばとイメージ」(2): 「記号」
第18回	トピック: 「ことばとイメージ」(3): 「詩書画」(2)
第19回	トピック: 「ことばとイメージ」(4): 「物語」
第20回	トピック: 「ことばとイメージ」(5): 「絵巻」「名所絵」
第21回	トピック: 「ことばとイメージ」(6): 「間テキスト性」
第22回	トピック: 「ジャンル」(1): 「分類」
第23回	トピック: 「ジャンル」(2): 日本美術の分類
第24回	トピック: 「オリジナリティ」
第25回	トピック: 「シミュラークル」
第26回	「美術史」の構図(3): 「美術史」と「美術」の現在
第27回	ヴィジュアル・イメージを語る(3): ディスカッション
第28回	ヴィジュアル・イメージを語る(4): ディスカッション
第29回	後期のまとめ
第30回	到達度確認

授業方法

講義課目ではあるが、講義と発表また特定のトピックについての議論を行う。それぞれについて講義と文献講読、学生による発表と議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、議論の対象となる文献を指定するので、事前に読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	30 %	コメントペーパーを小テストに代える
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

※大学院生には課程相応の学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーの内容については、授業内の議論を通じてフィードバックする。

参考文献

美術史を語る言葉:22の理論と実践,ロバート・S・ネルソン、リチャード・シフ編,ブリュッケ,2002,4-434-01622-9

その他

積極的に発言すること。連絡はメールによって行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M3A0301101	科目ナンバリング	13AF210
講義名	◆西洋美術史特殊研究(学部:美術史講義)(大学院)		
副題	フランス近代美術史のヒストリオグラフィー		
英文科目名	Advanced Studies in Western Art History (lecture)		
担当者名	吉田 紀子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 金曜日 3時限 南2-200		

授業概要

1980年代から進む美術史の見直し作業は、ポスト構造主義的な人文科学の方法論の見直しとも相まって、アヴァンギャルドとアカデミズムを包括した総体として19世紀の美術史を捉える新たな視点を確立してきました。同時に、受容史、文化相対主義、視覚文化史といった視点を伴いながら、美術批評、美術行政、画商の役割、展覧会、ロー・カルチャーとハイ・アート、ファッションやレジャーとの関係など、大きな意味での社会史的研究を促しました。こうした研究の展開を受けて、歴史は修正され続けるものであるという認識が、今日、我々の中に定着しようとしています。「美術史(ヒストリー)」と「美術史の編纂(ヒストリオグラフィー)」がそれぞれ別個の研究領域と見なされる近年の傾向は、その反映であると言ってよいでしょう。本講義では、19世紀を中心としたフランス美術史を論ずるに当たり、最近四半世紀の国内外の研究がもたらした新たな理解、すなわち新しい歴史の編纂に注意を向けていきたいと考えます。授業はおおむね年代を追って進みますが、毎回、特定のテーマを設けて論ずるため、概説的な通史の講義とはなりません。

到達目標

- (1) フランス近代美術史の一つ一つの事象について、知識としてこれを習得する。
- (2) 教科書的な通史書で述べられる美術の歴史は固定したのではなく、必要な手続きを経て修正される可能性があることを意識できるようにする。
- (3) 加えて、歴史の修正や更新に関わらず、我々の前に存在し続ける作品の意義、作品に経年変化をもたらす時間の作用など、美術史の別の側面や今後の方向性に対しても気づきを得られるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期授業のイントロダクション ヒストリーとヒストリオグラフィー
第2回	ダヴィッド《マラーの死》(1793年) フランス革命と美術
第3回	ダヴィッド《皇帝ナポレオン一世の聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》(1805～1807年) 事績記録者としての首席画家
第4回	ドラクロワ《キオス島の虐殺》(1824年) 絵画におけるオリエンタリズム
第5回	ドラクロワ《民衆を率いる自由の女神》(1830年) 「僕は現代の主題にとりかかった。バリケードの絵だ。」
第6回	先行研究の検討
第7回	ドーミエ《ガルガンチュア》(1831年) 七月王政と風刺版画
第8回	ドーミエ《洗濯女》《三等列車》(1863～1865年) 清貧な労働者像とミソジニー
第9回	クールベ《オルナンの埋葬》(1849～1850年) 歴史画に対する異議申し立て
第10回	クールベ《フラジェイの榎の木》(1864年) 第二帝政からパリ・コムニオン、第三共和制へ
第11回	展覧会見学とグループディスカッション
第12回	マネ《草上の昼食》(1863年) 西洋絵画史の結節点
第13回	マネ《エミール・ゾラの肖像》(1868年) イメージの等価性と操作性
第14回	第1学期授業の総括
第15回	予備日
第16回	第2学期授業のイントロダクション
第17回	1874年の第一回印象派展 モネ《印象、日の出》(1873年)
第18回	1874年の第一回印象派展 ルノワール《踊り子》(1874年)
第19回	描かれた都市生活 ピサロ《オペラ座通り》(1898年)
第20回	描かれた都市生活 カユボット《ヨーロッパ橋》(1876年)
第21回	先行研究の検討
第22回	描かれた田園・海浜風景 モネとルノワール《ラ・グルヌイエールにて》(1869年)
第23回	描かれた田園・海浜風景 ブーダン《トゥルーヴィルの浜辺にて》(1860年)
第24回	展覧会見学とグループディスカッション
第25回	晩年の印象派の画家たち モネ《睡蓮の池、緑色のハーモニー》(1899年)
第26回	晩年の印象派の画家たち セザンヌ《大きな松の木のあるサント=ヴィクトワール山》(1885～1887年)
第27回	エピソード ファンタン＝ラトゥール《ドラクロワ礼賛》(1864年)
第28回	エピソード ドニ《セザンヌ礼賛》(1900～1901年)

第29回 第2学期授業の総括

第30回 予備日

授業方法

授業では毎回、パワーポイントやDVD等のヴィジュアル教材を使用し、作品画像と共に講義を進めます。授業時間外に展覧会見学の機会を設け、その報告レポートを提出していただきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業後に各自のノートを復習すると共に、参考文献の該当箇所を読んで理解を深めた上で次の授業に臨んでください(30～60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席状況、課題レポートの充実度、学期末・学年末試験の結果等を総合して評価判断します。大学院生はより高度な学修と成果が求められ、また博士前期課程と博士後期課程、それぞれの基準に応じて成績評価を行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案やレポートについて授業内で適宜コメントを加えます。

教科書コメント

教科書は使用しません。

参考文献

フランス絵画史 ルネッサンスから世紀末まで:講談社学術文庫,高階秀爾,講談社,1990

フランス絵画の「近代」 シャルダンからマネまで:講談社選書メチエ,鈴木杜幾子,講談社,1995年

夢と光の画家たち モデルニテ再考,坂上桂子,スカイドア,2000

フランス近代美術史の現在 ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から,永井隆則(編),三元社,2007

(場所)で読み解くフランス近代美術,永井隆則(編),三元社,2016

参考文献コメント

テーマ研究の参考文献および外国語文献については、授業時に詳細な文献リストを配布します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M3A0301102	科目ナンバリング	13AF210
講義名	◆西洋美術史特殊研究(学部:美術史講義)(大学院)		
英文科目名	Advanced Studies in Western Art History (lecture)		
担当者名	廣川 暁生		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-304		

授業概要

ルネサンスからバロック美術の時代(15世紀から17世紀)に、西洋美術の一つの拠点を築いていたネーデルラント地方(現在のベルギー、オランダを中心とした地域)の美術の流れを、ヤン・ファン・エイクにはじまりボス、ブリューゲル、ルーベンス、レンブラント、フェルメールなど代表的な画家たちの作品とともに、その「写実(リアリティ)」の概念に焦点をあてながら辿ります。あわせてベルギー、オランダ近代の画家、クノップフ、マグリット、ゴッホの作品も取り上げ、その親和性を探ることで地域的な特徴にも注目していきます。

到達目標

ネーデルラント地方のルネサンスからバロック時代の美術の流れを把握し、代表的な作品の特徴を理解するとともに、美術作品の自分なりの見方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション・初期ネーデルラント美術1(ヤン・ファン・エイク1)
第2回	初期(15世紀)ネーデルラント美術2(ヤン・ファン・エイク2)
第3回	初期(15世紀)ネーデルラント美術3(カンピンとロヒール)
第4回	初期(15世紀)ネーデルラント美術4(肖像画)
第5回	初期(15世紀)ネーデルラント美術5(第二世代の画家たち1:クリストゥス、メモリンク)
第6回	初期ネーデルラント美術6(第二世代の画家たち2:ダーフィット、ファン・デル・フース)
第7回	ブリューージュとクノップフ
第8回	15世紀末から16世紀ネーデルラント美術1(ボス1)
第9回	15世紀末から16世紀ネーデルラント美術2(ボス2)
第10回	ベルギー奇想の系譜:ボスからマグリットまで
第11回	16世紀ネーデルラント美術1(マサイス)
第12回	16世紀ネーデルラント美術2(ロマニストたち)
第13回	16世紀ネーデルラント美術3(パティニールと風景表現の伝統)
第14回	16世紀ネーデルラント美術4(ピーテル・ブリューゲル1)
第15回	16世紀ネーデルラント美術5(ピーテル・ブリューゲル2)
第16回	ポスト・ブリューゲルの画家たち1(農民風俗画の主題)
第17回	ポスト・ブリューゲルの画家たち2(風景画の主題)
第18回	ポスト・ブリューゲルの画家たち3(ヤン・ブリューゲル)
第19回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)1(ルーベンス1)
第20回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)2(ルーベンス2)
第21回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)3(ルーベンスと専門画家の共作)
第22回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)4(ヨルダーンズ、ヴァン・ダイク)
第23回	17世紀オランダ美術1(レンブラント1)
第24回	17世紀オランダ美術2(レンブラント2/集団肖像画)
第25回	17世紀オランダ美術3(フェルメール1)
第26回	17世紀オランダ美術4(フェルメール2)
第27回	17世紀オランダ美術5(風俗画)
第28回	17世紀オランダ美術6(静物画・風景画)
第29回	ゴッホとオランダ美術
第30回	試験

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ヨーロッパの地図上でネーデルラント地方(現在のオランダ、フランスを中心とした地域)の場所を確認する(1時間) / 年表で15-

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	授業時配布プリント、ノート持ち込み可
中間テスト		
レポート	30 %	(前期)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	授業内のコメントペーパー

成績評価コメント

学年末の試験と前期のレポートとあわせて、授業内のコメントペーパー、出席についても総合的に評価する。
大学院生はより高度な学修と成果が求められ、また博士前期課程と博士後期課程、それぞれの基準に応じて成績評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期のレポートはコメントを付与の上返却する。

参考文献

西洋美術の歴史5 ルネサンスII,小佐野重利/小池寿子他,中央公論新社,2017,9784124035957
図説ベルギー 美術と歴史の旅:ふくろうの本,森洋子,河出書房新社,2015,9784309762265

参考文献コメント

その他の主要参考文献については授業時の配布プリントに随時掲載。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M3A0301103	科目ナンバリング	13AF210
講義名	◆西洋美術史特殊研究(学部:美術史講義)(大学院)		
副題	ルネサンス君主と美術		
英文科目名	Advanced Studies in Western Art History (lecture)		
担当者名	京谷 啓徳		
単位	4	配当年次	M 1年～2年
時間割	通年 木曜日 3時限 南1-206		

授業概要

ルネサンス期のイタリアでは、大国の狭間に小さな君主国家が存在し、それぞれが独自の宮廷文化によってヨーロッパ中に名声を博した。君主たちはイタリア内外から一流の芸術家を招聘し、彼らの宮廷は優れた美術作品で彩られていたのだ。その内実は、大規模な宮殿壁画や君主の肖像画から、宮廷生活を彩る工芸品、祝祭・儀礼の仮設装飾と多岐にわたる。本講義では、ウルビーノ、マントヴァ、フェッラーラなどイタリアの諸宮廷を巡りつつ、君主の存在を細やかに映し出した宮廷美術について考察する。

到達目標

ルネサンス美術についての理解を深めることができる。
西洋美術の見方についてさまざまな視点が学べる。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期のイントロダクション
第2回	マグニフィケンティア
第3回	ウルビーノのフェデリーコ・ダ・モンテフェルトロ
第4回	フェデリーコ・ダ・モンテフェルトロの肖像画
第5回	ウルビーノのドゥカーレ宮殿
第6回	フェデリーコのストゥディオーロ
第7回	マントヴァのゴンザーガ家
第8回	ピサネッロの壁画
第9回	夫妻の間1
第10回	夫妻の間2
第11回	マントヴァの聖血とサンタンドレア聖堂
第12回	《勝利の聖母》と《カエサルの勝利》
第13回	イザベラ・デステのストゥディオーロ
第14回	イザベラ・デステのグロッタ
第15回	まとめ
第16回	イントロダクション
第17回	フェッラーラのエステ家
第18回	レオネッロ・デステのストゥディオーロ
第19回	スキファノイア宮殿「月暦の間」
第20回	君主の美德
第21回	インプレーザ
第22回	フェッラーラ公国初代公爵ボルソ・デステ(1)
第23回	フェッラーラ公国初代公爵ボルソ・デステ(2)
第24回	ボルソ・デステの聖書
第25回	入市式の凱旋門1
第26回	入市式の凱旋門2
第27回	入市式の活人画1
第28回	入市式の活人画2
第29回	その後の活人画
第30回	まとめ

授業方法

パワーポイントや配布資料を用いて講義を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布資料やノートを見直すとともに、参考文献に目を通す努力をすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

※大学院生には課程相応の学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中にリアクションペーパーに対してコメントする。

参考文献コメント

参考文献は講義中に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303101	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	水墨画の歴史と表現		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	島尾 新		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西2-301		

授業概要

水墨画の歴史と表現

到達目標

東アジアにおける筆墨の文化・水墨の文化・詩書画の文化について、その概要を理解すること。具体的には、1)水墨画の歴史と表現、2)詩書画の関係、3)筆・墨・紙・硯などについて基礎知識を獲得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 水墨画のいろいろ
第2回	水墨画とはなにか？(1) 水墨画ということば
第3回	水墨画とはなにか？(2) 「筆墨」のはじまり
第4回	水墨の発見(1) 「墨」の発見1
第5回	水墨の発見(2) 「筆」の発見2
第6回	水墨画の存在様式(1) 筆・墨・紙の基礎知識
第7回	水墨画の存在様式(2) 墨の動きと滲み・余白
第8回	水墨画の特質(1) 筆墨論
第9回	水墨画の特質(2) 身体性
第10回	水墨画の特質(3) 抽象性
第11回	山水画について(1) イリュージョンニズムの水墨画
第12回	山水画について(2) 胸の丘壑
第13回	山水画について(3) 胸中が丘壑
第14回	第一学期のまとめ
第15回	第一学期の到達度確認
第16回	禅の水墨画(1) 中国
第17回	禅の水墨画(2) 日本
第18回	詩書画の世界(1) 書と画の関係
第19回	詩書画の世界(2) 文人画
第20回	水墨の表現・日本と中国
第21回	琳派の水墨画(1) たらしこみ
第22回	琳派の水墨画(2) 線と面
第23回	南画について
第24回	近代の水墨画・中国
第25回	近代の水墨画・日本
第26回	現代の水墨画・中国
第27回	現代の水墨画・日本
第28回	水墨画の未来
第29回	第二学期のまとめ
第30回	第二学期の到達度確認

授業方法

通常の講義形式で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の当該項目を通読しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出させる感想・質問票に、次回講義の冒頭で回答する。

教科書

水墨画入門: 岩波新書, 島尾新, 岩波書店, 2019, 978-4-00-431819-4

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303102	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	日本美術の主題と表現		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	佐野 みどり		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 北1-301		

授業概要

日本美術の主題と表現について、作品の解析を通して考えていきます。大きくは信仰、風俗、説話(物語)で分け、①物語表現の構造や、②景観表現の意味、③人物描写の機能などの論点を取り上げ、個々の作品の生成を辿ります。

到達目標

中近世絵画の多様な作品を知り、その成り立ちについて理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	信仰と物語①聖徳太子信仰の美術総論
第2回	信仰と物語②聖徳太子絵伝
第3回	信仰と物語③聖徳太子絵伝
第4回	信仰と物語④聖徳太子絵伝
第5回	信仰と物語⑤善光寺如来絵伝
第6回	信仰と物語⑥善光寺如来絵伝
第7回	信仰と絵画①近代絵画における仏教主題
第8回	信仰と絵画②近代絵画に見る聖徳太子
第9回	高僧伝の美術①明恵と華嚴縁起絵巻
第10回	高僧伝の美術②明恵と華嚴縁起絵巻
第11回	高僧伝と説話①不動利益縁起絵巻
第12回	高僧伝と説話②不動利益縁起絵巻
第13回	高僧伝と説話③不動利益縁起絵巻と融通念仏縁起絵巻
第14回	高僧伝と説話④空也上人絵伝
第15回	高僧伝と説話まとめ
第16回	掛幅縁起の構造
第17回	掛幅縁起と参詣曼荼羅
第18回	寄木をめぐる霊験譚
第19回	聖地と名所①霊験譚の場
第20回	聖地と名所②名所歌と名所絵
第21回	聖地と名所③山水屏風
第22回	聖地と名所④高野山水屏風
第23回	聖地と名所⑤高野山水屏風
第24回	聖地と名所⑥参詣図から名所絵へ
第25回	聖地と名所⑦名所絵から風俗画へ
第26回	聖地と名所⑧遊楽へのまなざし
第27回	聖地と名所⑨悪所の絵画
第28回	風俗画の展開
第29回	風俗画と物語
第30回	まとめ

授業方法

配付資料とパワーポイントで授業を進めます。授業後に毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

月ごとのシラバス(授業計画表)を配布するので、そこに掲げた参考文献に目を通して予復習をしてください。授業内で紹介する展覧会には積極的に見学に行ってください。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

期末試験では、特に安易な引用や受け売りではない、自分の言葉で論じていることを評価します。
また毎回提出のリアクションペーパーの内容などに窺われる授業への誠実な向かい合いを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーや課題はコメントをつけて返却します。

教科書コメント

教科書は特に設定しませんが、資料や論文など、あらかじめ配布した資料の熟覧を望みます。

参考文献

中世絵画のマトリックスⅠ,佐野みどり・新川哲男・藤原重雄編,青簡舎,2010,9784903996295
中世絵画のマトリックスⅡ,佐野みどり・加須屋誠・藤原重雄編,青簡舎,2014,9784903996721
華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起):絵巻大成17巻,小松茂美編,中央公論社,1978
近世風俗画1～5,狩野博幸,淡交社,1991

参考文献コメント

授業内で各テーマごとに参考文献表を提示します。

履修上の注意

高校での日本史履修は不問です。(履修していない場合は、時代と世紀の区分を確認しておきましょう。)

その他

授業で紹介する関連の展覧会に積極的に見学に行ってください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303103	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	第一次世界大戦以後の西洋美術		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	田中 正之		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 中央-403		

授業概要

前期はおもに第一次世界大戦以後と第二次世界大戦の間にヨーロッパで展開した美術について講義する。大戦への美術家たちの応答について論じた後、シュルレアリスムやエコール・ド・パリといった動向について説明する。後期は第二次世界大戦以後のヨーロッパとアメリカ美術について講義する。アンフォルメル、抽象表現主義、ポップ・アートなどについて主に論じる。

到達目標

20世紀半ばから後半にかけての西洋美術の歴史的転換についての知識を獲得し、作品の意味を深く理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 両大戦間の美術に関する総論
第2回	第1次世界大戦と美術
第3回	秩序への回帰
第4回	ダダの登場: チューリヒ・ダダ
第5回	ダダの展開(1): ドイツにおけるダダ
第6回	ダダの展開(2): パリとニューヨーク
第7回	マルセル・デュシャン(1)
第8回	マルセル・デュシャン(2)
第9回	シュルレアリスムとは何か: ブルトン、マッソン
第10回	シュルレアリスム美術の多様な技法: エルンスト、ダリ
第11回	シュルレアリスム美術の展開: ジャコメッティ
第12回	エコール・ド・パリ(1): モディリアーニ
第13回	エコール・ド・パリ(2): マルク・シャガール
第14回	社会派と社会主義の美術
第15回	前期のまとめ
第16回	戦後の西洋美術に関する総論
第17回	アンフォルメル(1): フォートリエ
第18回	アンフォルメル(2): デビュッフェ
第19回	アンフォルメル(3): スーラージュ、アルトウング、マチュウ
第20回	抽象表現主義(1): ジャクソン・ポロック(1)
第21回	抽象表現主義(2): ジャクソン・ポロック(2)
第22回	抽象表現主義(3): マーク・ロスコ
第23回	抽象表現主義(4): バーネット・ニューマン
第24回	ネオ・ダダ(1): ロバート・ラウシェンバーグ
第25回	ネオ・ダダ(2): ジャスパー・ジョーンズ
第26回	ポップ・アート: イギリスでの展開(リチャード・ハミルトン、ピーター・ブレイク)
第27回	ポップ・アート: アメリカでの展開(ウォーホル、リキテンスタイン)
第28回	ヌーヴォー・リアリスム: イヴ・クライン、ニキ・ド・サンファル
第29回	ミニマリズム: ドナルド・ジャッド、ロバート・モリス、フランク・ステラ
第30回	後期のまとめ

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

参考文献を参照して、授業前に固有名詞(画家名や流派名、地名など)に親しんでおくこと(1時間)。授業後は、同じく参考文献に掲

載されている図版を確認しつつ、講義で取り上げた作品のイメージを覚えるとともに、どのような問題点が指摘されたのかを整理しておくこと(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	コメントペーパーの提出を必須とする
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに記された質問や意見を授業に反映させる。

参考文献

- 西洋美術の歴史8 20世紀 越境する現代美術,中央公論新社
- 増補改訂版 カラー版 20世紀の美術,美術出版社
- 世界美術大全集 第25巻 フォーヴィスムとエコール・ド・パリ,小学館
- 世界美術大全集 第26巻 表現主義と社会派,小学館
- 世界美術大全集 第28巻 キュビスムと抽象美術,小学館

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303104	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	近世フランス美術の諸相		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	小林 亜起子		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 中央-403		

授業概要

本講義では、近世フランス美術について学びます。1学期目はこの時代の絵画を読み解く上で基礎となる絵画のジャンルあるいは主題に応じたカテゴリー——宗教主題や神話を題材とした歴史画、肖像画、風俗画、風景画、静物画——について学びます。かつて絵画には歴史画を頂点とするジャンルに応じた位階(ヒエラルキー)がありました。絵画の位階は、絶対王政下に創設された王立絵画彫刻アカデミーの理念を理解する上で鍵を握っています。こうした基礎知識を習得した上で、2学期目は17、18世紀フランスを中心に、同時代のヨーロッパ絵画について取り上げ、その特質について考察します。17世紀フランスでは、王立絵画彫刻アカデミーの設立によって、国王の庇護下に芸術家が組織され、古典主義絵画の礎が築かれました。18世紀に開花するロココ美術は、フランスから周辺諸国に波及していきます。フランス・ブルボン王朝の美術とともに、同時期のヨーロッパの宮廷美術についても学習します。

到達目標

1年間の講義を通じて、第一に、この時代の絵画を読み解く上で鍵となる絵画のジャンルに注目しながら、絵画の見方を身につけます。第二に、絶対王政を確立したルイ14世の時代の古典主義、18世紀ロココ、新古典主義のフランス美術を中心に、同時期のヨーロッパ諸国の美術にも視野を広げて理解を深めることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期目のイントロダクション—絵画のジャンルとヒエラルキー
第2回	宗教画—旧約聖書
第3回	宗教画—新約聖書 マリア伝
第4回	宗教画—新約聖書 キリスト伝
第5回	宗教画—新約聖書 キリストの奇跡
第6回	風景画—風景画の誕生
第7回	風景画—理想的風景画の系譜
第8回	静物画
第9回	神話画—オリュンポスの神々
第10回	神話画—変身物語の世界
第11回	神話画—神話と宮殿装飾
第12回	戦争画
第13回	風俗画
第14回	1学期の授業の総括
第15回	理解度の確認
第16回	2学期目のイントロダクション
第17回	近世フランス美術の幕開け—16世紀ルネサンス
第18回	17世紀フランス—ブルボン王朝と芸術
第19回	ヴェルサイユ宮殿の建築と装飾
第20回	17世紀スペイン—スペイン・ハプスブルク家と芸術
第21回	18世紀フランス—ロココ 前半
第22回	18世紀フランス—ロココ 後半
第23回	近世フランス—装飾美術 タピスリー
第24回	近世フランス—装飾美術 シノワズリー
第25回	18世紀ヴェネツィア—絵画と装飾美術
第26回	18世紀フランス—新古典主義の絵画
第27回	18世紀ウィーン—オーストリア・ハプスブルク家と芸術
第28回	18世紀ロシア—ロマノフ王朝と芸術
第29回	2学期の授業の総括
第30回	理解度の確認

授業方法

授業はパワーポイントを用いて進めていきます。また、毎回プリントを配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱ったテーマについて、ノートを見直し、参考文献を読むことを通じて、理解を深めてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

2回の試験の成績によって判断します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案については、授業内で必要に応じて解説を行います。

教科書コメント

教科書は使用しません。

参考文献コメント

授業中に毎回配布するプリントにて指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303105	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	成原 有貴		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 中央-402		

授業概要

日本絵画の中でも主に中世から近世の絵画を対象とし、絵の主題内容や表現の特質について、多様な作品を通して詳しく学びます。あわせて、作品が制作された当時の社会・文化状況を視野に入れて、絵の意味を読み解き、制作事情や制作目的を考察し、作品の社会的意味や機能について理解を深めることを目指します。実施回30回のうち、前半は絵巻を中心に、後半はテーマを設定して多様な形式の作品をとりあげ、講義します。

到達目標

絵画を分析的に見る力を養い、代表的作品の制作背景や歴史的意義を理解できるようになる。日本絵画の多様性について理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスー絵画作品との向き合い方
第2回	絵巻の見方
第3回	物語絵巻研究「源氏物語絵巻」1
第4回	物語絵巻研究「源氏物語絵巻」2
第5回	六道絵研究「地獄草紙」
第6回	六道絵研究「餓鬼草紙」
第7回	六道絵研究「病草紙」
第8回	説話絵巻研究「伴大納言絵巻」1
第9回	説話絵巻研究「伴大納言絵巻」2
第10回	縁起絵巻研究「信貴山縁起絵巻」1
第11回	縁起絵巻研究「信貴山縁起絵巻」2
第12回	縁起絵巻研究「当麻曼荼羅縁起絵巻」1
第13回	縁起絵巻研究「当麻曼荼羅縁起絵巻」2
第14回	理解度の確認
第15回	到達度の確認
第16回	源氏絵の表現と歴史ー継承と創造1
第17回	源氏絵の表現と歴史ー継承と創造2
第18回	あやかしをめぐる表現:「土蜘蛛草紙」「付喪神絵巻」
第19回	あやかしをめぐる表現:「百鬼夜行絵」と妖怪画
第20回	土地を描くことの意味:名所絵と神道絵画1
第21回	土地を描くことの意味:名所絵と神道絵画2
第22回	世界遺産に出会う:巖島神社と平家の美術1
第23回	世界遺産に出会う:巖島神社と平家の美術2
第24回	死をめぐる表現:九相図1
第25回	死をめぐる表現:九相図2
第26回	死をめぐる表現:地獄極楽図屏風と来迎図
第27回	女性と絵画:女性画家とその表現
第28回	女性と絵画:描かれた女性像の意味
第29回	理解度の確認
第30回	到達度の確認

授業方法

講義形式を基本とする。ほぼ毎回パワーポイントを使用し、画像を映写する。授業時に、感想文(作品についての記述など)の作成・提出を求めることがある。受講者の人数にもよるが、作品の解釈などを課題とするグループワークを一部の回で実施する予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:授業時に紹介する参考文献の関連箇所などを読んでおくこと。復習:授業内で配布するプリントを読み、専門用語の意味などについて復習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーに書かれた受講者のコメントなどに、授業内で応答する。

教科書コメント

教科書は特に指定しない。授業内で適宜紹介する。

参考文献

日本絵巻大成,中央公論社

続日本絵巻大成,中央公論社

日本美術のことば案内,日高薫,小学館,2003

すぐわかる源氏物語の絵画,田口榮一監修,東京美術,2009

日本美術全集,辻惟雄ほか,小学館,2012

参考文献コメント

以上のほか、授業内で適宜紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303106	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	アルブレヒト・デューラーとその時代		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	秋山 聡		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西2-305		

授業概要

ルネサンス期のドイツを代表し、イタリアやネーデルランド、フランス、東欧にも大きな影響を与え、死後も知名度を保ち続けた画家アルブレヒト・デューラーの画業を、具体的作例の分析を中心に置きつつ、歴史的背景にも顧慮しつつ講じる。具体的には、自画像、修業と工房の実態、宮廷画家と市井の画家、新たなメディアとしての版画、古代受容、キリスト教中世との連続性、著作権的意識の誕生、人文主義者との交流、理論的著作の意味、自己成型の諸相、商業的才能、画家にとっての旅の意義、美と醜の弁証法、事実と伝説の相関性、死後の名声への意識、諸外国との影響関係等のトピックを取り上げる。

到達目標

美術史研究に必要な基本的知識と方法を、デューラーに関わる事例を学ぶことを通して身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	デューラーの生涯 I
第3回	デューラーの生涯 II
第4回	修業時代 I
第5回	修業時代 II
第6回	第一次イタリア旅行 I
第7回	第一次イタリア旅行 II
第8回	版画家としてのデューラー I
第9回	版画家としてのデューラー II
第10回	版画家としてのデューラー III
第11回	ザクセン選帝侯フリードリヒ賢明公とデューラー I
第12回	ザクセン選帝侯フリードリヒ賢明公とデューラー II
第13回	デューラーの自画像 I
第14回	デューラーの自画像 II
第15回	第二次イタリア旅行 I
第16回	第二次イタリア旅行 II
第17回	第二次イタリア旅行 III
第18回	ヘラー祭壇画：タフ・ネゴシエーターとしてのデューラー I
第19回	ヘラー祭壇画：タフ・ネゴシエーターとしてのデューラー II
第20回	ヘラー祭壇画と「五百年保証」
第21回	神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世とデューラー I
第22回	神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世とデューラー II
第23回	ネーデルラント旅行 I
第24回	ネーデルラント旅行 II
第25回	ネーデルラント総督オーストリアのマルガレーテとその美術コレクション
第26回	コレクターとしての枢機卿アルブレヒト・フォン・ブランデンブルク
第27回	デューラーの理論的著述 I
第28回	デューラーの理論的著述 II
第29回	デューラーと死後の名声
第30回	まとめ

授業方法

講義形式で行なう。適宜、小レポートのようなものを課す。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

適宜、関連する図版を書物やオンライン上で見て確認することが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト・小レポートの内容をも顧慮するが、基本的にはレポートを重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

質問等があった場合は、適宜、授業前後等に応じる。小レポートについては、それへの反応を授業内に盛り込む予定である。

教科書コメント

特に設定しない。

参考文献

雑誌: 西洋美術研究, 三元社

西洋美術の歴史5: ルネサンスⅡ: 西洋美術の歴史, 秋山聰ほか, 中央公論新社, 2018

西洋美術の歴史4: ルネサンスⅠ: 西洋美術の歴史, 小佐野重利ほか, 中央公論新社, 2017

参考文献コメント

適宜、授業内で関連参考文献に言及する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U310303107	科目ナンバリング	031A233
講義名	美術史講義		
副題	日本近代美術史—絵画を中心に—		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	三戸 信恵		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南3-104		

授業概要

近代の日本美術は、制作のあり方から作品の見方にいたるまで、作家と社会、作品と人々の関係性がそれ以前とは大きく変化しました。この授業では、近代になって確立された絵画の新たなジャンルである洋画と日本画を中心に、幕末から明治、大正、昭和にいたる約1世紀の間の日本美術の動向をたどります。近代の代表的な作家や作品の諸例を紹介するとともに、制度や教育、経済や国際関係など、近代特有の問題にも目を配りながら、日本の近代美術史を紐解いていきます。

到達目標

- ・日本の近代美術に関する基礎知識を習得する。
- ・日本の近代絵画に対する理解を深める。
- ・作品を鑑賞、分析するための基本的なスキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:近代以前、近代以降
第2回	高橋由一
第3回	柴田是真と河鍋暁斎
第4回	博覧会と輸出工芸
第5回	「美術」の誕生と美術教育の革新
第6回	狩野芳崖と橋本雅邦
第7回	フェノロサと岡倉天心
第8回	竹内栖鳳と明治の京都画壇
第9回	山本芳翠と浅井忠
第10回	富岡鉄斎と近代の南画
第11回	横山大観と菱田春草
第12回	黒田清輝と白馬会の画家たち
第13回	アール・ヌーヴォーと近代の琳派
第14回	近代の彫刻
第15回	理解度の確認
第16回	展覧会と会派
第17回	川合玉堂と鏑木清方
第18回	上村松園と女性画家
第19回	近代の版画
第20回	新たな主題ジャンル—歴史画と裸体画—
第21回	『白樺』と洋画の新潮流
第22回	院展の新世代:小林古徑から速水御舟へ
第23回	パトロンとコレクター
第24回	国画創作協会の画家たち
第25回	日本画モダニズム
第26回	欧米の芸術思潮と昭和の洋画界
第27回	独自路線を行く:藤田嗣治と川端龍子
第28回	国家と美術
第29回	戦後の画壇
第30回	理解度の確認

授業方法

講義内容に関するプリントをもとに、パワーポイントやDVD等を用いてビジュアル資料を提示しながら、講義形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・前回の授業のノートを読み直し、専門用語等は調べて次回までに理解しておくこと(1時間～2時間)。
- ・展覧会に足を運び実際の作品世界に触れる、あるいは美術全集などの書籍を開いて作品の図版を見ること(1時間～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験では、授業の内容をどの程度理解できているか、および自身が理解していることについて筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。なお、試験は第1学期と第2学期の両方を受験しないと不可となりますので注意してください。

レポート、コメントペーパーでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出物の内容をもとに実施後の授業に反映させ、問題点や課題が見つかった場合は授業時にアドバイスをを行います。

教科書コメント

特に指定しません。

参考文献

- 日本美術全集,前川誠郎他編,講談社,1990～1993
- 日本美術館,小学館,1997
- 近代日本美術家列伝,神奈川県立近代美術館編,美術出版社,1999
- 日本美術全集,辻惟雄・泉武夫・山下裕二・板倉聖哲編,小学館,2012～16
- 美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史,山下裕二・高岸輝監修,美術出版社,2014

参考文献コメント

これらのほか適宜授業時に紹介します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3103031Z1	科目ナンバリング	031A233
講義名	◇美術史講義		
副題	日本陶磁造形論		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	荒川 正明		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 中央-303		

授業概要

やきものをつくること、それは人類がはじめて化学変化を応用して達成されたものとされています。土や泥や石のような見栄えのしない原料が、炎の働きによって、人工の宝石ともいふべき輝くばかりの光を放つ美しいうつわに生まれ変わります。そのようなやきものを私たちは長い歴史のなかで暮らしのなかで活かし、とくに茶道具や食器として身近で触れ、そのかたちやデザインを心から楽しむことができました。この講義を通じて、やきものを楽しむための基礎的な見方や知識が身につくことを課題とします。

到達目標

日本のやきものについての基礎的な見方や知識を獲得し、うつわを使うこと、鑑賞することを楽しめるようになること。さらに、その造形に興味や関心を抱き、美術史的なアプローチが可能になるような能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	やきものに親しむ
第3回	やきものが出来るまで(1)
第4回	やきものが出来るまで(2)
第5回	やきものづくりの名人(1)
第6回	やきものづくりの名人(2)
第7回	やきものコレクター
第8回	古典の名作に出会う(1) 土器を中心に
第9回	古典の名作に出会う(2) 須恵器を中心に
第10回	古典の名作に出会う(3) 奈良三彩
第11回	古典の名作に出会う(4) 平安時代の施釉陶器
第12回	古典の名作に出会う(5) 中世の陶器—瀬戸窯
第13回	古典の名作に出会う(6) 中世の陶器—渥美・常滑
第14回	貿易陶磁とは？
第15回	桃山時代の陶器(1) 瀬戸・美濃窯
第16回	桃山時代の陶器(2) 瀬戸・美濃窯
第17回	桃山時代の陶器(3) 唐津窯
第18回	桃山時代の陶器(4) 京都の樂焼
第19回	近世のやきもの(1) 磁器の誕生
第20回	近世のやきもの(2) 肥前磁器—古九谷
第21回	近世のやきもの(3) 肥前磁器—柿右衛門
第22回	近世のやきもの(4) 肥前磁器—鍋島
第23回	近世のやきもの(5) 京焼—野々村仁清
第24回	近世のやきもの(6) 京焼—尾形乾山
第25回	近代のやきもの(1) 明治有田
第26回	近代のやきもの(2) 京焼
第27回	現代のやきもの(1)
第28回	現代のやきもの(2)
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	予備日

授業計画コメント

展覧会や個展など、実際に作品に近づく機会をなるべくもちたい。

授業方法

パワーポイントなどを使った講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前回の授業の復習をしてくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% 年間数本のレポートと試験を行います。

第1学期(学期末試験):20% 第2学期(学年末試験):20% レポート:40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメント用紙を利用し、質問や疑問に応じたい。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

やきものの見方:角川選書,荒川正明,2004

やきものの楽しみ方,荒川正明,池田書店,2009

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

これまでにやきものに興味のない人、ほとんど知識の無い人でも全く問題ありません。授業に積極的に参加する学生を歓迎します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3103031Z2	科目ナンバリング	031A233
講義名	◇美術史講義		
副題	日本美術史研究の諸相		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	島尾 新		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-503		

授業概要

日本美術史・東洋美術史研究に関わるさまざまなトピックと研究方法を取り上げて、講義と文献講読また学生による発表と議論を行う。

到達目標

- 1) ヴィジュアル・イメージについて、その種類に関わらず語れるようになること。
- 2) 日本絵画史を中心とした東アジア美術史のさまざまなトピックと研究方法について基本的な知識と認識をもつこと。
- 3) それぞれのトピックについてのディベートを行うスキルを身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	美術史の構図(1): 日本美術の概論
第3回	美術史の構図(2): 「作品」のレイヤー
第4回	ヴィジュアル・イメージを語る(1): 一枚の絵から
第5回	ヴィジュアル・イメージを語る(2): 表現の種類
第6回	トピック: 「表象」と「再現」
第7回	トピック: 「人」(1): 「肖像」「裸体」
第8回	トピック: 「人」(2): 「環境」と「記号」
第9回	トピック: 「自然」(1): 「自然」と「Nature」
第10回	トピック: 「自然」(2): 「山水」と「風景」
第11回	トピック: 「自然」(3): 「空間」
第12回	トピック: 「東アジア」
第13回	トピック: 「ポストモダニズム・ポストコロニアリズム」
第14回	前期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	トピック: 「ことばとイメージ」(1): 「詩書画」(1)
第17回	トピック: 「ことばとイメージ」(2): 「記号」
第18回	トピック: 「ことばとイメージ」(3): 「詩書画」(2)
第19回	トピック: 「ことばとイメージ」(4): 「物語」
第20回	トピック: 「ことばとイメージ」(5): 「絵巻」「名所絵」
第21回	トピック: 「ことばとイメージ」(6): 「間テキスト性」
第22回	トピック: 「ジャンル」(1): 「分類」
第23回	トピック: 「ジャンル」(2): 日本美術の分類
第24回	トピック: 「オリジナリティ」
第25回	トピック: 「シミュラークル」
第26回	「美術史」の構図(3): 「美術史」と「美術」の現在
第27回	ヴィジュアル・イメージを語る(3): ディスカッション
第28回	ヴィジュアル・イメージを語る(4): ディスカッション
第29回	後期のまとめ
第30回	到達度確認

授業方法

講義課目ではあるが、講義と発表また特定のトピックについての議論を行う。それぞれについて講義と文献講読、学生による発表と議論を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、議論の対象となる文献を指定するので、事前に読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	30 %	コメントペーパーを小テストに代える
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーの内容については、授業内の議論を通じてフィードバックする。

参考文献

美術史を語る言葉: 22の理論と実践, ロバート・S・ネルソン、リチャード・シフ編, ブリュッケ, 2002, 4-434-01622-9

その他

積極的に発言すること。連絡はメールによって行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3103031Z3	科目ナンバリング	031A233
講義名	◇美術史講義		
副題	フランス近代美術史のヒストリオグラフィー		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	吉田 紀子		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 南2-200		

授業概要

1980年代から進む美術史の見直し作業は、ポスト構造主義的な人文科学の方法論の見直しとも相まって、アヴァンギャルドとアカデミズムを包括した総体として19世紀の美術史を捉える新たな視点を確立してきました。同時に、受容史、文化相対主義、視覚文化史といった視点を伴いながら、美術批評、美術行政、画商の役割、展覧会、ロー・カルチャーとハイ・アート、ファッションやレジャーとの関係など、大きな意味での社会史的研究を促しました。こうした研究の展開を受けて、歴史は修正され続けるものであるという認識が、今日、我々の中に定着しようとしています。「美術史(ヒストリー)」と「美術史の編纂(ヒストリオグラフィー)」がそれぞれ別個の研究領域と見なされる近年の傾向は、その反映であると言ってよいでしょう。本講義では、19世紀を中心としたフランス美術史を論ずるに当たり、最近四半世紀の国内外の研究がもたらした新たな理解、すなわち新しい歴史の編纂に注意を向けていきたいと考えます。授業はおおむね年代を追って進みますが、毎回、特定のテーマを設けて論ずるため、概説的な通史の講義とはなりません。

到達目標

- (1) フランス近代美術史の一つ一つの事象について、知識としてこれを習得する。
- (2) 教科書的な通史書で述べられる美術の歴史は固定したのではなく、必要な手続きを経て修正される可能性があることを意識できるようにする。
- (3) 加えて、歴史の修正や更新に関わらず、我々の前に存在し続ける作品の意義、作品に経年変化をもたらす時間の作用など、美術史の別の側面や今後の方向性に対しても気づきを得られるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期授業のイントロダクション ヒストリーとヒストリオグラフィー
第2回	ダヴィッド《マラーの死》(1793年) フランス革命と美術
第3回	ダヴィッド《皇帝ナポレオン一世の聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》(1805～1807年) 事績記録者としての首席画家
第4回	ドラクロワ《キオス島の虐殺》(1824年) 絵画におけるオリエンタリズム
第5回	ドラクロワ《民衆を率いる自由の女神》(1830年) 「僕は現代の主題にとりかかった。バリケードの絵だ。」
第6回	先行研究の検討
第7回	ドーミエ《ガルガンチュア》(1831年) 七月王政と風刺版画
第8回	ドーミエ《洗濯女》《三等列車》(1863～1865年) 清貧な労働者像とミソジニー
第9回	クールベ《オルナンの埋葬》(1849～1850年) 歴史画に対する異議申し立て
第10回	クールベ《フラジェイの樫の木》(1864年) 第二帝政からパリ・コムニオン、第三共和制へ
第11回	展覧会見学とグループディスカッション
第12回	マネ《草上の昼食》(1863年) 西洋絵画史の結節点
第13回	マネ《エミール・ゾラの肖像》(1868年) イメージの等価性と操作性
第14回	第1学期授業の総括
第15回	予備日
第16回	第2学期授業のイントロダクション
第17回	1874年の第一回印象派展 モネ《印象、日の出》(1873年)
第18回	1874年の第一回印象派展 ルノワール《踊り子》(1874年)
第19回	描かれた都市生活 ピサロ《オペラ座通り》(1898年)
第20回	描かれた都市生活 カユボット《ヨーロッパ橋》(1876年)
第21回	先行研究の検討
第22回	描かれた田園・海浜風景 モネとルノワール《ラ・グルヌイエールにて》(1869年)
第23回	描かれた田園・海浜風景 ブーダン《トゥルーヴィルの浜辺にて》(1860年)
第24回	展覧会見学とグループディスカッション
第25回	晩年の印象派の画家たち モネ《睡蓮の池、緑色のハーモニー》(1899年)
第26回	晩年の印象派の画家たち セザンヌ《大きな松の木のあるサント＝ヴィクトワール山》(1885～1887年)
第27回	エピローグ ファンタン＝ラトゥール《ドラクロワ礼賛》(1864年)
第28回	エピローグ ドニ《セザンヌ礼賛》(1900～1901年)

第29回 第2学期授業の総括

第30回 予備日

授業方法

授業では毎回、パワーポイントやDVD等のヴィジュアル教材を使用し、作品画像と共に講義を進めます。授業時間外に展覧会見学の機会を設け、その報告レポートを提出していただきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業後に各自のノートを復習すると共に、参考文献の該当箇所を読んで理解を深めた上で次の授業に臨んでください(30～60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席状況、課題レポートの充実度、学期末・学年末試験の結果等を総合して評価判断します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案やレポートについて授業内で適宜コメントを加えます。

教科書コメント

教科書は使用しません。

参考文献

フランス絵画史 ルネッサンスから世紀末まで: 講談社学術文庫, 高階秀爾, 講談社, 1990

フランス絵画の「近代」 シヤルダンからマネまで: 講談社選書メチエ, 鈴木杜幾子, 講談社, 1995年

夢と光の画家たち モデルニテ再考, 坂上桂子, スカイドア, 2000

フランス近代美術史の現在 ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から, 永井隆則(編), 三元社, 2007

(場所)で読み解くフランス近代美術, 永井隆則(編), 三元社, 2016

参考文献コメント

テーマ研究の参考文献および外国語文献については、授業時に詳細な文献リストを配布します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3103031Z4	科目ナンバリング	031A233
講義名	◇美術史講義		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	廣川 暁生		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-304		

授業概要

ルネサンスからバロック美術の時代(15世紀から17世紀)に、西洋美術の一つの拠点を築いていたネーデルラント地方(現在のベルギー、オランダを中心とした地域)の美術の流れを、ヤン・ファン・エイクにはじまりボス、ブリューゲル、ルーベンス、レンブラント、フェルメールなど代表的な画家たちの作品とともに、その「写実(リアリティ)」の概念に焦点をあてながら辿ります。あわせてベルギー、オランダ近代の画家、クノップフ、マグリット、ゴッホの作品も取り上げ、その親和性を探ることで地域的な特徴にも注目していきます。

到達目標

ネーデルラント地方のルネサンスからバロック時代の美術の流れを把握し、代表的な作品の特徴を理解するとともに、美術作品の自分なりの見方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション・初期ネーデルラント美術1(ヤン・ファン・エイク1)
第2回	初期(15世紀)ネーデルラント美術2(ヤン・ファン・エイク2)
第3回	初期(15世紀)ネーデルラント美術3(カンピンとロヒール)
第4回	初期(15世紀)ネーデルラント美術4(肖像画)
第5回	初期(15世紀)ネーデルラント美術5(第二世代の画家たち1:クリストゥス、メモリンク)
第6回	初期ネーデルラント美術6(第二世代の画家たち2:ダーフィット、ファン・デル・フース)
第7回	ブリューージュとクノップフ
第8回	15世紀末から16世紀ネーデルラント美術1(ボス1)
第9回	15世紀末から16世紀ネーデルラント美術2(ボス2)
第10回	ベルギー奇想の系譜:ボスからマグリットまで
第11回	16世紀ネーデルラント美術1(マサイス)
第12回	16世紀ネーデルラント美術2(ロマニストたち)
第13回	16世紀ネーデルラント美術3(パティニールと風景表現の伝統)
第14回	16世紀ネーデルラント美術4(ピーテル・ブリューゲル1)
第15回	16世紀ネーデルラント美術5(ピーテル・ブリューゲル2)
第16回	ポスト・ブリューゲルの画家たち1(農民風俗画の主題)
第17回	ポスト・ブリューゲルの画家たち2(風景画の主題)
第18回	ポスト・ブリューゲルの画家たち3(ヤン・ブリューゲル)
第19回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)1(ルーベンス1)
第20回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)2(ルーベンス2)
第21回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)3(ルーベンスと専門画家の共作)
第22回	フランドル・バロック(17世紀フランドル美術)4(ヨルダーン、ヴァン・ダイク)
第23回	17世紀オランダ美術1(レンブラント1)
第24回	17世紀オランダ美術2(レンブラント2/集団肖像画)
第25回	17世紀オランダ美術3(フェルメール1)
第26回	17世紀オランダ美術4(フェルメール2)
第27回	17世紀オランダ美術5(風俗画)
第28回	17世紀オランダ美術6(静物画・風景画)
第29回	ゴッホとオランダ美術
第30回	試験

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ヨーロッパの地図上でネーデルラント地方(現在のオランダ、フランスを中心とした地域)の場所を確認する(1時間) / 年表で15-

17世紀のヨーロッパの歴史上の主要な出来事に目を通す(1時間) / 授業中に配布した資料を読み返すこと(試験前2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	授業時配布プリント、ノート持ち込み可
中間テスト		
レポート	30 %	(前期)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	授業内のコメントペーパー

成績評価コメント

学年末の試験と前期のレポートとあわせて、授業内のコメントペーパー、出席についても総合的に評価する。
大学院生はより高度な学修と成果が求められ、また博士前期課程と博士後期課程、それぞれの基準に応じて成績評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期のレポートはコメントを付与の上返却する。

参考文献

西洋美術の歴史5 ルネサンスII,小佐野重利/小池寿子他,中央公論新社,2017,9784124035957
図説ベルギー 美術と歴史の旅:ふくろうの本,森洋子,河出書房新社,2015,9784309762265

参考文献コメント

その他の主要参考文献については授業時の配布プリントに随時掲載。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3103031Z5	科目ナンバリング	031A233
講義名	◇美術史講義		
副題	ルネサンス君主と美術		
英文科目名	History of Art (lecture)		
担当者名	京谷 啓徳		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 南1-206		

授業概要

ルネサンス期のイタリアでは、大国の狭間に小さな君主国家が存在し、それぞれが独自の宮廷文化によってヨーロッパ中に名声を博した。君主たちはイタリア内外から一流の芸術家を招聘し、彼らの宮廷は優れた美術作品で彩られていたのだ。その内実は、大規模な宮殿壁画や君主の肖像画から、宮廷生活を彩る工芸品、祝祭・儀礼の仮設装飾と多岐にわたる。本講義では、ウルビーノ、マントヴァ、フェッラーラなどイタリアの諸宮廷を巡りつつ、君主の存在を細やかに映し出した宮廷美術について考察する。

到達目標

ルネサンス美術についての理解を深めることができる。
西洋美術の見方についてさまざまな視点が学べる。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期のイントロダクション
第2回	マグニフィケンティア
第3回	ウルビーノのフェデリーコ・ダ・モンテフェルトロ
第4回	フェデリーコ・ダ・モンテフェルトロの肖像画
第5回	ウルビーノのドゥカーレ宮殿
第6回	フェデリーコのストゥディオーロ
第7回	マントヴァのゴンザーガ家
第8回	ピサネッロの壁画
第9回	夫妻の間1
第10回	夫妻の間2
第11回	マントヴァの聖血とサンタンドレア聖堂
第12回	《勝利の聖母》と《カエサルの勝利》
第13回	イザベラ・デステのストゥディオーロ
第14回	イザベラ・デステのグロッタ
第15回	まとめ
第16回	イントロダクション
第17回	フェッラーラのエステ家
第18回	レオネッロ・デステのストゥディオーロ
第19回	スキファノイア宮殿「月暦の間」
第20回	君主の美德
第21回	インプレーザ
第22回	フェッラーラ公国初代公爵ボルソ・デステ(1)
第23回	フェッラーラ公国初代公爵ボルソ・デステ(2)
第24回	ボルソ・デステの聖書
第25回	入市式の凱旋門1
第26回	入市式の凱旋門2
第27回	入市式の活人画1
第28回	入市式の活人画2
第29回	その後の活人画
第30回	まとめ

授業方法

パワーポイントや配布資料を用いて講義を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布資料やノートを見直すとともに、参考文献に目を通す努力をすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中にリアクションペーパーに対してコメントする。

参考文献コメント

参考文献は講義中に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U400103101	科目ナンバリング	040E502
講義名	地学概論Ⅱ		
英文科目名	Outline of Geology II		
担当者名	巻出 健太郎		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 1時限 西1-309		

授業概要

中学校理科ならびに高等学校の地学では、地球の姿と活動、地球の歴史、宇宙の中の地球、大気と海洋、地球環境について学びます。これらの分野のうち、地学概論Ⅱでは主に地球の姿と活動、地球の歴史、大気と海洋について学びます。なお、地学概論Ⅰでは宇宙の中の地球、地球環境について学びます。地学概論ⅠおよびⅡは隔年で開講され、「教科に関する科目」であり「理科」の免許を取得するための選択必修科目です。どちらか一方を履修すれば教員免許取得のための単位を取得できますが、それぞれ扱かう内容は重複しないので、関心がある生徒はぜひ両方を履修してください。

到達目標

一般的に高等学校の理科では、物理・化学・生物・地学のそれぞれの専門科目に分かれ授業が行われますが、とりわけ地学は、他の物理・化学・生物の見地を総合して地球や宇宙を知る「総合科学」の性格を持つものです。これまで地学にあまり馴染みのない学生にも、ぜひ地学の楽しみやおもしろさに触れて欲しいと思います。例えば、ハワイ諸島のホットスポットと呼ばれるところでは、マグマの火山活動とプレートの移動によって、今まさに新たな島が海底深くに作られています。ハワイ島のキラウエア火山では活発に火山活動が続いています。慌ただしい現代の時間軸とは異なり、46億年の長い時間軸で地球の姿について学んでみましょう。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス&日本海
第2回	黒潮大蛇行
第3回	巨大地震
第4回	日本に迫る脅威
第5回	大陸移動とプレートテクトニクス
第6回	火山大噴火
第7回	地震予測に挑む
第8回	地球を作る鉱物と岩石
第9回	鉱物
第10回	堆積岩および変成岩
第11回	地球環境の変遷と生物進化
第12回	カンブリア爆発から中生代
第13回	人類進化と第四紀の環境
第14回	アメリカの国立公園を巡る
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

学習院大学は、国立科学博物館の大学パートナーシップ校です。学生証を提示すれば常設展を無料で見学することができます。日頃から訪れてみて下さい。授業で紹介した事柄をより深く理解し、楽しむことができるでしょう。希望者がいれば、6月の日曜日に国立科学博物館見学会を実施します。

授業方法

授業は基本的に講義形式で行います。できるだけ映像や資料なども見せたい。なお、実験については別に開講する「地学実験」にて行いません。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

地学は、机上の論よりも実際にフィールドに出て体験学習したいところですが、それはなかなか難しいので、それを補うために図説資料を有効に利用して下さい。図や表が何を意図して書かれたものであるかを理解することが大切です。事前に該当箇所を見ておくと講義の内容がより深く理解出来ると思います。また、講義中に取り扱った図表をノートにまとめて整理しておくとい良いでしょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

1限の授業ですから、授業に遅れぬように参加すること。
授業への参加と学期末試験の成績を総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期末試験については、希望する学生については郵送にて返却します。あるいは、夏休み中に地学実験の授業に参加する、または理学部の学生には地学実験の授業時に返却します。

教科書

ニューステージ地学図表,浜島書店,2019,978-4-8343-4015-0

教科書コメント

学内の書店に図表を取り寄せてあるので、受講時までに購入しておくこと。今年度より教科書が一部改訂されておりますが、昨年度より地学概論を継続している学生については改めて購入する必要はありません。また授業の時間は限られています。内容に応じて参考図書を紹介するので、できるだけ多くの参考文献を読んで下さい。

履修上の注意

第1回の授業に必ず参加すること。

その他

学芸員資格取得のため本科目を選択履修する場合には、「地学概論I・II」をそれぞれ併せて履修・単位習得する必要があります。I・IIIは隔年で開講されるので計画的に履修して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U410101101	科目ナンバリング	041A121
講義名	力学基礎1 物1年		
英文科目名	Mechanics 1		
担当者名	西坂 崇之		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 南3-103		

授業概要

ルールを知らなければどんなゲームもスポーツも楽しめないように、背後にある法則が分からなければ自然現象の面白さを実感することはできない。力学は、身の回りにある(ただしかなり単純にモデル化された)運動を、法則に基づいた数式によって理解する学問である。授業ではさまざまな運動を数式で表現していく。この作業は単なる代数学ではなく、法則を確かな概念へと高める手段であるということ意識して、授業に臨んでもらいたい。

到達目標

物体のある瞬間の運動と、その時間発展が、数式で記述できるのだという概念を感覚として確実に身につけるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	力のつり合い 梯子/斜面/力の平行四辺形の法則
第2回	ベクトルの演算法ベクトルとは何か/ベクトルになるもの・ならないもの/ベクトルの取り扱い方
第3回	ニュートンの力学法則(1)慣性の法則/Aristotleの世界観
第4回	ニュートンの力学法則(2)力と加速度/作用と反作用の法則
第5回	運動を記述する(1)落体/微分方程式
第6回	運動を記述する(2)抵抗
第7回	運動を記述する(3)単振動・減衰振動/波の式の理解
第8回	運動を記述する(4)強制振動/非斉次微分方程式
第9回	運動を記述する(5)円運動/軌道
第10回	座標系デカルト座標/極座標
第11回	衝突 ホイヘンスの思考実験/反発係数の意味
第12回	保存される量運動エネルギー/運動量/力積
第13回	力学的エネルギー保存力/ポテンシャル
第14回	全般的なまとめ
第15回	理解度の確認

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

高校までの力学と重複する箇所もあるので、不得意な部分は十分に復習を終えておくこと(1時間)。また授業後に復習し、授業中に説明した概念や式変形を再確認すること(90分以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期(学期末試験):80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

希望者には採点後の答案を返却する。

教科書コメント

特に教科書は指定しないが、自身の深い思索の指針とするために、個人の好みにあった本を最低一冊は購入しておくことを強く推奨する。

参考文献

ファインマン物理学 I 力学(下の部分的な翻訳本),R.P.ファインマン 他,岩波書店

The Feynman Lectures on Physics, R. P. Feynman 他, Addison Wesley

力学—高校生・大学生のために, 江沢洋, 日本評論社

演習 力学, 今井功ら著, サイエンス社

力学, 原島鮮著, 裳華房

その他

授業は時間通りに開始するので、遅刻しないように。また特別な事情が無い限り、板書を写真撮影することは推奨しない。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U410103101	科目ナンバリング	041A131
講義名	電磁気学1 物1年		
英文科目名	Electricity and Magnetism 1		
担当者名	平野 琢也		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 南3-103		

授業概要

電磁気学は、力学とならんで古典物理学の基礎をなす学問であり、またその応用は現代社会を支える技術として重要な役割を担っている。電磁気学の基本は「場の概念」であり、それを記述するには「ベクトル解析」の手法を用いる。講義では、具体的な電磁気現象をもとにこの美しい体系の理解をめざす。電磁気学の学習を通して、抽象化された概念の中に物理的意味を見出す感覚を身に付けてほしい。電磁気学1では、クーロンの法則から始まり近接作用、場の概念を導入し、ガウスの法則を中心とした静電気学を扱う。

到達目標

電場をベクトル場として理解し、簡単な面積分と線積分を実行できるようになること、また、ガウスの法則と渦なしの法則の物理的な意味を理解し、電場に関する微分形のマクスウェル方程式を理解できるようになることを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	電荷
第2回	クーロンの法則
第3回	電場
第4回	電気力線
第5回	ガウスの法則
第6回	ガウスの法則の応用
第7回	渦なしの法則
第8回	静電ポテンシャル
第9回	ポテンシャルから電場を導く
第10回	ガウスの定理と微分形のガウスの法則
第11回	静電エネルギー
第12回	ポアソンの方程式とラプラスの方程式
第13回	静電場中の導体
第14回	静電容量とコンデンサー
第15回	まとめ

授業方法

講義形式でおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業後に教科書や参考書等の該当箇所を読んで復習し、授業中に説明した概念や式変形を再確認すること(3時間)。レポート課題は授業を受けた日に取り組むことが望ましい。分からないことがあれば、遠慮なく質問してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート	15 %	
小テスト	5 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期限内に提出されたレポートはコメントを付けて返却する。期末試験の答えは採点後に返却する。

教科書

電磁気学 新装版 1:物理入門コース,長岡洋介,岩波書店,2017

教科書コメント

『電磁気学1』(物理入門コース)をもとに講義を進めていく予定。

参考文献

電磁気学:裳華房テキストシリーズー物理学,兵頭俊夫,裳華房,1999

電磁気学:物理テキストシリーズ,砂川重信,岩波書店,1987

電磁気学:ファインマン物理学,ファインマンほか,岩波書店,1986

電磁気学:バークレー物理学コース,飯田修一 監訳,丸善,1985

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U420108101	科目ナンバリング	042A111
講義名	無機化学 I 化1年		
副題	無機化学における基本概念		
英文科目名	Inorganic Chemistry I		
担当者名	赤荻 正樹		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 南7-101		

授業概要

無機化学は、周期表のすべての元素を対象とする学問である。構成元素、組成の違いによって生ずる無機化合物の構造や性質の多様性を知り、その多様性を体系化していく。無機化合物の多様性を理解し、体系化するためには普遍的な基本概念が必要となる。この講義では、無機化学における普遍的な概念について学ぶ。

到達目標

無機化学における普遍的な基本概念を理解し、様々な無機化合物を取り扱いその性質を理解するために必要な基礎知識が得られるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに - 歴史的背景
第2回	原子構造 - 水素原子の構造、原子軌道
第3回	原子構造 - 多電子原子 電子配置
第4回	原子構造 - 多電子原子 原子の特性
第5回	分子構造
第6回	分子における対称性
第7回	分子における結合
第8回	単純な固体の構造
第9回	イオン固体の構造
第10回	固体における結合
第11回	イオン固体のエネルギー
第12回	固体の電子構造
第13回	元素の周期的性質
第14回	化合物の周期的性質
第15回	理解度の確認

授業方法

講義形式でおこなう。適宜、課題を出してレポートの提出を求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に教科書の関連する箇所を読み、疑問点をまとめておくこと(約1時間)。
授業後に、ノートをもとにして教科書を再読し、理解を深めること(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。上記に目安となる評価配分を記す。レポート:20%(数回のレポートにより評価する) 第1学期学期末試験:70%(総合的な理解度を評価する) 平常点(出席、クラス参加等):10%。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや試験の解答用紙を返却し解説する。

教科書

シュライバー アトキンス 無機化学(上), 田中勝久・高橋雅英・安部武志・平尾一之・北川進 訳, 東京化学同人, 第6版, 2016

参考文献コメント

必要に応じて補足のプリントを配布し、参考文献を示す。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U420109101	科目ナンバリング	042A112
講義名	無機化学Ⅱ 化1年		
英文科目名	Inorganic Chemistry II		
担当者名	鈴木 敏弘		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 南1-303		

授業概要

s-ブロック元素(水素、1~2族)およびp-ブロック元素(13~16族)について、元素と代表的な化合物の分子構造・結晶構造ならびに物理的・化学的性質を説明する。また、これらの性質や特徴について、元素の電子配置から系統的に解説する。

到達目標

元素や化合物の多様な化学的性質を、元素の電子配置に基づいて系統的に理解することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	元素の起源と周期律
第2回	元素の電子配置と周期表
第3回	元素特性の周期的変化
第4回	周期表と化学結合
第5回	水素
第6回	1族元素 アルカリ金属
第7回	2族元素 アルカリ土類金属
第8回	中間の理解度確認
第9回	13族元素 ホウ素、アルミニウム
第10回	13族元素 ガリウム、インジウム、タリウム
第11回	14族元素 炭素、ケイ素
第12回	14族元素 ゲルマニウム、スズ、鉛
第13回	15族元素 窒素、リン、ヒ素、アンチモン、ビスマス
第14回	16族元素 酸素、硫黄、セレン、テルル
第15回	理解度の確認

授業方法

教科書を参照しながら主にプロジェクターにより講義形式で行い、実験の様子なども紹介する予定である。実物の元素や化合物の観察も行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んで、疑問点などをまとめておく(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト	45 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験後に答案を返却し、授業内で解説を行う。

教科書

シュライバー・アトキンス 無機化学(上), 田中勝久・高橋雅英・安部武志・平尾一之・北川進 訳, 東京化学同人, 6, 2016, 9784807908981

教科書コメント

授業内容の一部は、2年次に使用する『シュライバー・アトキンス 無機化学(下)』に含まれるので、下巻もあわせて用意することをすすめる。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U420111101	科目ナンバリング	042A121
講義名	有機化学概論 I 化1年		
副題	有機化学の基礎を固める		
英文科目名	Essential Organic Chemistry I		
担当者名	狩野 直和		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 南3-103		

授業概要

高校で学んできた有機化学と異なり、大学における有機化学では、原子間結合の生成あるいは解離を電子の動きを考えながら理解しなければならない。本講義を通して有機化学の基礎を習得するだけでなく、有機化学が「生命の基礎科学」と「人工物創製の化学」の基礎となる重要な学問であることを学んでほしい。

到達目標

有機化学とはどのような学問か大まかに理解し、そのためにはどのように有機化学を勉強すべきかを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	化学結合と分子の成り立ち: 原子軌道と電子配置
第2回	化学結合と分子の成り立ち: 化学結合・ルイス構造式
第3回	有機化合物: 官能基と分子間相互作用
第4回	分子のかたちと混成軌道: 分子のかたちと軌道モデル
第5回	分子のかたちと混成軌道: 構造異性体と立体異性体
第6回	立体配座と分子のひずみ
第7回	共役と電子の非局在化
第8回	理解度の確認
第9回	酸と塩基: 酸と塩基の定義
第10回	酸と塩基: 酸性度を決める因子
第11回	有機化学反応の基礎
第12回	カルボニル基への求核付加反応1
第13回	カルボニル基への求核付加反応2
第14回	カルボン酸誘導体の求核付加反応
第15回	総括

授業方法

指定した教科書に従って講義形式で授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

高校の有機化学と異なり、学び、理解することが多くあるので、教科書を参照して簡単な予習を毎回行うこと。また毎回の講義後、復習を行うこと(30-60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト: 20% (その日の授業を理解しているかどうか)、中間テスト: 40% (内容を理解しているかどうか)、第1学期(学期末試験): 40% (内容を理解しているかどうか) で成績を付ける。テストにおいては化学的な理解力を重要視する。小テストを毎回行うので、毎回の授業に出席して理解することも重要である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験について授業内で解説を行う。

教科書

有機化学, 奥山格・石井昭彦・箕浦真生, 丸善出版, 改訂2, 2016, 978-4-621-08977-4

参考文献

ウレット・ローン基本有機化学,R. Ouellette, J. David Rawn著、狩野直和訳,東京化学同人,2015,9784807909117

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

教科書は準備すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U420112101	科目ナンバリング	042A122
講義名	有機化学概論Ⅱ 化1年		
副題	有機化学の基礎を固める		
英文科目名	Essential Organic Chemistry II		
担当者名	秋山 隆彦		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 南7-101		

授業概要

高校で学んできた有機化学と異なり、大学における有機化学では、原子間結合の生成あるいは解離を電子の動きを考えながら理解しなければならない。本講義を通して有機化学の基礎を習得するだけでなく、有機化学が「生命の基礎科学」と「人工物創製の化学」の基礎となる重要な学問であることを学んでほしい。

到達目標

有機化学とはどのような学問か大まかに理解し、そのためにはどのように有機化学を勉強すべきか会得することを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	有機化学概論Iの復習
第2回	立体化学:分子の左右性
第3回	ハロアルカンの求核置換反応
第4回	ハロアルカンの脱離反応
第5回	アルコール、エーテル、硫黄化合物とアミン
第6回	アルケンとアルキンへの付加反応1
第7回	アルケンとアルキンへの付加反応2
第8回	理解度の確認
第9回	芳香族求電子置換反応1
第10回	芳香族求電子置換反応2
第11回	エノラートイオンとその反応1
第12回	エノラートイオンとその反応2
第13回	求電子性アルケンへの求核反応
第14回	芳香族化合物への求核反応
第15回	総括

授業計画コメント

上記の計画はおおよそのものであり、多少の変更があり得る。

授業方法

教科書に基づいて講義を行う。授業中に行う小テストは教科書に書かれている問題の中から出題する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

高校の有機化学と異なり、学び、理解することが多くあるので、簡単な予習は行うように習慣づける。また、毎回の講義後に復習を行うこと(30-60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

中間テスト:40%、学期末試験(第2学期):40%、小テスト:20% 試験においては化学的な理解力を重要視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に適宜小テストを行う。

教科書

有機化学,奥山格・石井昭彦・箕浦真生,丸善出版,改訂2,2016,978-4621089774

有機化学 改訂2版 問題の解き方,奥山格,丸善出版,2016,978-4621089767

参考文献

ウレット・ローン基本有機化学:n,R. Ouellette, J. David Rawn 著, 狩野直和 訳,東京化学同人,2017,9784807909117

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

教科書を準備すること。教科書は図書館にも置いてある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U440104101	科目ナンバリング	044A105
講義名	生化学1 生1年		
副題	生命に関わる分子と化学反応		
英文科目名	Biochemistry 1		
担当者名	菱田 卓		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 南7-101		

授業概要

生物を構成する分子の多くは炭素を含む有機化合物であり、この中にはタンパク質、核酸、糖、脂質などが含まれる。遺伝情報の伝達や細胞分裂、代謝による物質の合成や分解などの生命活動の基本原理は、すべての生物に共通であり、様々な有機化合物が重要な役割を果たしている。したがって、生命活動を分子レベルで明らかにするためには、これらの有機化合物の化学的特徴についてしっかりと理解しておくことが必須である。生化学は、生物の機能や構造を化学の原理に基づいて分子レベルで明らかにする学問であり、遺伝、発生、神経科学などの基礎生物学だけでなく、医学・薬学など、生命科学全般を理解する上で基礎となる学問である。本授業では、生物の細胞や組織を構成する様々な分子の性質や構造について生命機能と関連付けながら解説する。

到達目標

生物が持つ様々な有機物について構造と機能の両面から学び、それらの化学的な特性が生命機能にどのように結びつき、どのように活かされているのかを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	生命の化学的基礎(生命を構成する分子)
第2回	水溶液の生化学(1)水分子の化学的特徴
第3回	水溶液の生化学(2)酸と塩基
第4回	アミノ酸の構造
第5回	アミノ酸の化学的性質
第6回	タンパク質の立体構造と階層性
第7回	タンパク質の構造と機能
第8回	ヘモグロビンの生化学
第9回	酵素の反応速度論(1)ミカエリス・メンテン式
第10回	酵素の反応速度論(2)酵素の反応阻害
第11回	核酸(DNA・RNA)の化学的性質
第12回	ゲノムDNAの安定性維持(1)DNA複製
第13回	ゲノムDNAの安定性維持(2)DNA修復
第14回	糖質・脂質
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

講義期間中に演習等を行う場合がある。

授業方法

スライド及び板書を用いた講義形式。スライドの内容は全て資料として配布する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各授業時に配った資料の”まとめ欄”の内容について復習し、理解度を深めておくこと(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	小テストを行わない場合は学期末試験を70%とする
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席、授業に対する姿勢等
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験は配布資料のまとめ欄の内容について理解度を問う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験問題について、わからない点は解説を行う。

参考文献

エッセンシャル生化学,東京化学同人,第3,2018,4807909193

ホートン生化学,H.R.ホートン,東京化学同人,第5,2013,4807908340

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U440105101	科目ナンバリング	044A106
講義名	生化学2 生1年		
英文科目名	Biochemistry 2		
担当者名	小島 修一		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 南7-101		

授業概要

細胞あるいは生物体内では、小分子から高分子の合成あるいはその逆反応である分解など、酵素が触媒する実に多くの反応が起きており、その結果として生命活動を維持するために必要なエネルギーなども生み出されている。これらは「代謝」と呼ばれ、糖、脂質、アミノ酸の分解および合成、電子伝達、ATPの合成などを含む。これらの「代謝反応」について主に化学的観点から授業を行い、さらにこれら代謝を制御する仕組みについても触れる。

到達目標

生命科学の中では基礎的な分野であり、細胞あるいは生体内における物質の相互変換である「代謝」について、それらが酵素による化学的反応であることを理解し、さらにエネルギーの源であるATPの合成および使われ方なども含め、「代謝」について化学的観点から考えることができるようになる。これにより、生命現象を分子レベルで理解する力を養える。

授業内容

実施回	内容
第1回	代謝の概要(ATP、補酵素の性質などを含む)
第2回	グルコースの異化代謝(その1:解糖系の詳細)
第3回	グルコースの異化代謝(その2:解糖系の調節、アルコール発酵、ペントースリン酸経路)
第4回	糖新生とグリコーゲン代謝(ピルビン酸からグルコースへ、グリコーゲンの分解と合成)
第5回	アセチルCoAの合成(ピルビン酸デヒドロゲナーゼ複合体の詳細)
第6回	クエン酸サイクル(二酸化炭素への分解)
第7回	クエン酸サイクルまでの代謝経路の総括、ならびに中間の理解度の確認
第8回	電子伝達と酸化的リン酸化(その1:電子伝達のしくみなど)
第9回	電子伝達と酸化的リン酸化(その2:化学浸透圧説、ATPの合成など)
第10回	脂質代謝(脂肪酸の分解および生合成)
第11回	アミノ酸代謝(アミノ酸の分解、尿素サイクル)
第12回	ヌクレオチド代謝(プリンおよびピリミジンヌクレオチドの生合成)
第13回	光合成(その1:葉緑体、明反応を中心に)
第14回	光合成(その2:暗反応を中心に)
第15回	総括および理解度の確認

授業方法

板書を中心に授業を進め、随時、プリント等で授業内容についてのまとめを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布されたプリントや参考書の該当する箇所を読んでおき、また理解不十分だった箇所については復習で理解を深めること。(2~3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

「代謝」について、それらが物質の変化に伴う化学反応であることを理解し、酵素反応による物質の変換について化学的観点から考える力が身についているか、が評価のポイントになる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

参考文献

生化学,ホートン著、鈴木ら訳、東京化学同人、第5版、2013

エッセンシャル生化学,プラット著、須藤ら訳,東京化学同人,2006

基礎生化学,ヴォート著、田宮ら訳,東京化学同人,第5版,2017

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U440110101	科目ナンバリング	044A108
講義名	動物科学 生1年		
副題	動物における生物科学の基礎		
英文科目名	Animal Science		
担当者名	安達 卓		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 南7-101		

授業概要

多細胞動物の体制を単細胞生物と比較すると、細胞-組織-臓器-個体から成る階層性が存在することがわかる。マイクロからマクロまでの各階層に見られる基本的性質のうち興味深いピックを選んで、高校の生物で学ぶ知識からより一層発展させた内容を講義する。全ての授業内容は相互に関連するので、これらが有機的に統合された知識体系を習得したい。また、ヒトは多くの動物種の中の1つであり、ここで解説する様々な現象や原理は、ヒトのみが適用されない例外ではなく、ヒトを含めた多くの動物に貫かれる共通のしくみであることを理解したい。

到達目標

本講義は1年生を対象とするので、各項目の詳細よりも、全体像の把握と基礎知識の習得を目標とする。その結果、自ら課題を発見し、その解決に必要な方策を提案・遂行する力を十分に身につけられることが期待される。

授業内容

実施回	内容
第1回	生物の中の動物・動物の中の細胞
第2回	動物の系統と進化
第3回	動物の減数分裂と各種遺伝子地図
第4回	動物の有性生殖と免疫機構
第5回	動物の非メンデル遺伝
第6回	動物の性決定と血縁淘汰
第7回	動物の分布と変異の生成
第8回	動物の細胞間/細胞内シグナル伝達
第9回	動物の転写制御とマスター遺伝子
第10回	動物の発生を司るシグナルと転写
第11回	動物の遺伝的モザイクと異数性
第12回	動物に見る性淘汰の原理
第13回	動物発癌の基礎
第14回	理解度の確認
第15回	

授業方法

講述とパワーポイント資料を用いた授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎授業後、数日のうちに(記憶が薄れないうちに)、30分ほど、配布資料を用いて復習することが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	36 %	
中間テスト	36 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	28 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

中間テストならびに学年末試験では、どちらも選択問題と筆記問題が出題され、基本的な理解度が試されます。平常点は、出席ならびに授業に対する姿勢によって、評価されます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

中間テストならびに学期末試験を実施したのち、それぞれの正答を配布し、解説します。また、各履修者の要請に応じ、採点後の答案を返却します。

教科書コメント

テキストは使用せず、毎回資料を配布します。

参考文献

『分子生物学講義中継(全5巻)』,井出利憲,羊土社,2005

参考文献コメント

以上の参考文献は、講義内容を網羅するものではありません。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U440111101	科目ナンバリング	044A109
講義名	植物科学 生1年		
英文科目名	Plant Science		
担当者名	清末 知宏		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 南7-101		

授業概要

本講義では、大学で初めて「植物」を学ぶ学生を対象に、植物の形態、代謝、生理に関する重要な基礎項目について解説する。また、近年急速に発展した植物の分子生物学、分子遺伝学、バイオテクノロジーによってもたらされた最新の知識、成果についても概説する。知的探求をめざす基礎科学としての「植物科学」と、深刻化する世界的な食糧、エネルギー、環境問題を解決するための応用科学としての「植物科学」について、その魅力と重要性を伝える。

到達目標

植物の遺伝子組換え、植物ホルモンの種類とはたらき、植物の環境応答、等について科学的に理解し、その概要を伝えられる能力を獲得すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入 植物科学を学ぶにあたって ～授業の目的と成績評価方法～
第2回	植物の遺伝子組換え(1)植物への遺伝子導入
第3回	植物の遺伝子組換え(2)トランスジェニック植物の選抜
第4回	植物の遺伝子組換え(3)遺伝子組換え実験の安全性
第5回	植物の遺伝子組換え(4)色々な遺伝子組換え植物
第6回	植物の遺伝子組換え(5)まとめ
第7回	植物ホルモンとその生理作用(1)古い植物ホルモン
第8回	植物ホルモンとその生理作用(2)新しい植物ホルモン
第9回	植物の環境応答(1)光発芽
第10回	植物の環境応答(2)避陰反応
第11回	植物の環境応答(3)光形態形成
第12回	植物の環境応答(4)光屈性と重力屈性
第13回	植物の環境応答(5)光周性花芽形成
第14回	植物の器官分化～ABCモデル～
第15回	理解度の確認

授業方法

視聴覚教材(パワーポイント、DVD等)と印刷物を併用して授業を進める。授業内容の理解を深められるように、随時、演習問題や課題を取り入れる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に高校生物の教科書の該当箇所を読み、理解しておくこと(約30分)。学習した内容は、復習して、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。疑問点は、参考書や文献、インターネット等を利用して調べること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト(演習問題):正答率だけでなく、答えに至るまでの考え方も重視する。
平常点:コメントシートにより、疑問点や理解度をチェックする。
学年末試験:植物科学の基礎知識と論理的な考察能力を問う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習問題の解答および解説を行い、必要に応じてオフィスアワーで補足説明を行う。

参考文献

植物生理学・発生学,テイツ/ザイガー,講談社

その他

履修者は、生命科学科学生、あるいは、高校で生物基礎および生物の両方を履修した学生に限る。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>